

せんぞくいけこうえん

洗足池公園の立地と自然

名勝洗足池公園-②

指定：都指定文化財（名勝）平成31年（2019）3月15日指定

所在地：南千束2-1-4他（交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩1分）

公開の有無：常時公開（寺社・公共施設を除く）

洗足池は、多摩川の左岸に広がる武蔵野台地の入り組んだ谷の付け根に立地しています。もともとは灌漑用として、洗足池の北側に位置する清水窪湧水（区指定文化財）をはじめとした湧き水や雨水などを堰き止めてつくられた淡水池です。この洗足池の水は、南側の「洗足流れ」という小川を通り呑川に流れ込んでいます。

また、洗足池はもともと千束郷の大池と呼ばれており、さらに大きな池でしたが、埋め立てなどによって現在の形となりました。なお対となる小池も現在の池台1丁目27番地にのこっています。

洗足池とその周辺の自然については、幕末にプロイセン王国の日本使節団の代表として来日したオイレンブルクの『日本遠征記』に「野鴨や雁の大群がやってくる」、「水には緑の木の梢がどの角度からも映って見える」（万延元年（1860）9月の項）と書かれているなど、当時から緑豊かな土地であったことがわかります。

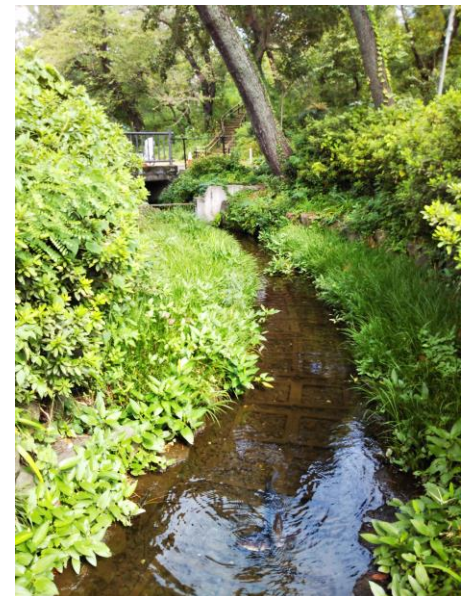
現在も、区内有数の桜の名所として知られており、バードウォッチングの方々もたくさん訪れるほど自然環境に恵まれた憩いの場です。令和2年度の調査では約95種、1,300本の樹木が園内に存在することがわかりました。さらには、鳥類だけでなく、多くの魚類、昆虫類、両生・爬虫類などによって、洗足池の生態系が保たれています。これらを持続的に保護していくため、大田区では「ギンヤンマの飛ぶ公園」を目標として池周辺の環境整備を行い、日々、樹木の新植や水質浄化の取り組みを行っています。

〔関連文化財〕区指定天然記念物 清水窪湧水（北千束1-26）：

東京の名湧水57選の一つで、湧水地点の池には弁財天が祀られています。



洗足池の立地図
（国土地理院 電子国土WEBをもとに加筆）



洗足池公園の清水窪湧水路